

# 新型コロナウイルス感染拡大に伴う 看護臨地実習に代わる校内での実習の取り組みについて

衛生看護科

## 1 はじめに

3年生の看護臨地実習においては看護過程の展開の基礎を体験することが目標である。従来は生徒達がそれぞれの受け持ち患者の情報収集を行っており、教員がそれぞれの患者把握や生徒の理解度に合わせた臨地での指導となっていた。

今回は校内での実習に代替されたため、学校側で患者設定をすることになった。その結果、段階を追って看護過程の展開をすすめていくことができるように実習内容を組み立てることができた。

## 2 校内実習目標及び計画・内容

2週間を1クールとして4クール8週間の実習期間において、各クール毎に患者設定を行い、内科系・外科系、それぞれグループワークから個人での看護展開を学べるように設定した。

### (1) 実習目標の段階化

ア 1・2例目：グループワーク⇒関連図⇒アセスメント⇒看護問題の抽出⇒優先順位を考慮して1つ目標設定⇒計画立案

イ 3例目：個人⇒関連図⇒アセスメント⇒看護問題の抽出⇒優先順位を考慮して2つ目標設定⇒計画立案

### (2) 事例について

ア 1例目：患者像をイメージしやすいと考えられる内科系疾患：肺炎

イ 2例目：急性期の学習として受け持つ機会の多い外科系疾患：胃がん、大腿部頸部骨折  
3～4人のグループで違う疾患を学習しグループで発表して内容を共有

ウ 3例目：個人で学習していくため患者像をイメージしやすく受け持つ機会の多い疾患：脳梗塞

### (3) 学習の進め方

疾患の理解やアセスメントがすすめられるように日程や時間の設定を行った。

ア グループで学習内容の確認や理解したことの教え合いができる。

イ アを基に個人で病態関連図の下書きを作成できる。

ウ グループおよび個人で作成した内容についてお互いの補い合いや内容の確認・教え合いができる。

エ 1, 2クールでは患者情報をまとめたプリントを配布し, 3クール目の個人での看護過程の展開においては必要であると考え情報の項目を自分で考えて情報収集から行う。

### (4) 展開した看護過程の実施

計画立案した看護計画に沿って、お互いが看護師役、患者役となり実際に看護援助を行うことで次の点を確認した。

ア 患者像を正しく捉えられていたか。

イ 患者の状態に合った必要な援助が考えられていたか。

ウ 正確に丁寧に基本的な技術を実施できたか。

エ 作成したパンフレットを用いて指導を行い、患者を把握・理解できているか。

オ 患者の立場になって考えることができているか。

- (5) 母性・小児実習を4クール目に設定し、視聴覚教材や体験的実習、教員の体験談なども含め看護の対象をできるだけ具体的にイメージできるよう工夫を行った。

### 3 生徒の様子

2年生の基礎看護の授業で学習してきた看護過程について、新たに患者情報を得てどのように展開していけば良いか指導していくと、次のような様子がみられた。

1クール目では、紙面上の患者の情報を捉えることが難しく、疾患の学習の仕方から確認し、理解度に応じて指導していく必要があった。学習の進め方を説明し、全体に提示するとグループでの活動が効果的にすすめられていった。

2クール目では、周術期の患者で、2年生までに学習している内容ではあるが事例の状況などイメージしにくい様子であった。そのため、DVD 視聴等、具体的な場面を提示する教材を工夫したところ、グループで教え合いながら更に理解を深めることができていた。

3クール目では、一人で看護過程を展開することとしたが、個人の理解度の差が大きく、取り組む状況に違いが見られた。そのため生徒の状況に応じて教員が指導する時間を調整したところ、アセスメントや患者指導等に興味をもって実習に臨む様子がみられた。

4クール目の母性・小児実習では、男子生徒も含めて妊婦体験や分娩体位体験、退院時指導等できるだけ具体的な体験の時間を多く設定した。こうした実習を通して、周産期にある対象への理解を深めるとともに興味をもって実習に取り組むことができていた。

病院での臨地実習では生徒の理解度に合わせた指導時間の確保が難しいが、校内での臨地実習であったため対象の状態理解に繋がるように調整し時間を確保することができた。生徒によっては教員側が思った以上の内容までアセスメントすることができ、実習内容についての確認や質問もあり、学んだことと実際に繋がり、理解が深まっていくプロセスに楽しさを感じている生徒もいた。

### 4 まとめ

段階を追って看護過程の展開をすすめられるように実習内容を組み立てることで、生徒達の理解力に応じた効果的な実習をすすめることができ、患者に対して看護が行われるまでの過程について体験を通して学び、理解を深められたのではないかと思う。

### 5 おわりに

看護臨地実習が校内実習となったことで、当初生徒達は何をどのように学べば良いのか大きな不安を抱いていた。学校側は、校内実習となっても生徒が進学後に不利にならないよう思考過程を育てるために実習前から実習内容について検討し、実習計画を立案した。また、実習中も生徒の状況を見ながら、実習計画について修正や追加を行った。生徒達からは次の様な感想がまとめられ、達成感を得られた様だった。

- ・事前学習は大切
- ・校内実習になって、お互いの患者体験を通して患者様の気持ちをイメージできた



課題研究発表会 まとめスライドから